

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
外国語学部	国際言語学科	夜・通信		12	38	50	13	
人間科学部	健康栄養学科	夜・通信			68	68	13	
	理学療法学科	夜・通信	19		75	94	13	
	作業療法学科	夜・通信			77	96	13	
	看護学科	夜・通信			114	114	13	
	こども発達学科	夜・通信			125	125	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ガイダンス時に配布（2019年度前期は未実施）及びホームページ上に記載 https://unipa-ap.do-bunkyo-dai.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園の概要及び大学HPにおいて公開している「事業報告書」に掲載し公表している。
 (HPの公表先：<http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社 アサヒトラベル・インターナショナル	平成30年6月1日 ～令和2年5月31日	理事長代理（管理運営担当） 理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときはその職務を代行し又はその職務を行う。 民間企業における統括部門の経験が豊富で、人事労務管理に精通しており、職員に対するSDをはじめとする人材教育等「質保証」への助言・指導を求める
非常勤	恵庭体育協会	平成30年6月1日 ～令和2年5月31日	地域貢献担当 恵庭市内に長く勤務していた経験があり地域における大学の貢献への助言・指導を求める。
(備考) 非常勤理事3名中2名を記載			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>開講前年度の12月までに来年度の授業を計画し、2月中旬を期限としてシラバスの作成、ポータルシステムへの登録へと進めている。教員には、「シラバスの作成に関する研修会について」のFD研修会を開催し、資料「シラバス作成要領」に基づき、①授業の位置づけ、②授業の概要、③到達目標、④授業の方法、⑤授業計画(学習内容、準備事後学習)、⑥成績評価の方法、⑦教科書、⑧参考文献、⑨課題に対するフィードバックの方法などを示している。</p> <p>シラバス作成後は、シラバスチェック専門部会規程により選出されたシラバスチェック委員により、全科目のシラバスが「シラバスチェック要領」に基づいて内容確認が行われ、3月下旬にWEB公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://unipa-ap.do-bunkyodai.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目について、事前にシラバスに掲載された「評価の方法」に基づき評価を行い、単位を与えると共に、入学前に教育機関で得た単位について学内の委員会で審議を行い、適当と判断されたものについて、単位を認定している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価においては客観的な指標の設定として、GPAを算出する制度を定めている。GPAの公表方法として、学生への通知は、成績通知表に学期GPA及び通算GPAを表示することにより行い、成績証明書には記載しない。各学科は、GPAに基づく学修指導の計画を策定し、学生の学修指導を行うものとする。学期GPAが4期連続1.0未満となった場合は退学を勧告する。算出方法は以下のとおりで計算値は小数点第3位以下を四捨五入して標記する。

学期GPA

$$\frac{\text{(当該期に評価を受けた科目のGP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{当該期の総履修登録単位数}}$$

通算GPA

$$\frac{\text{(各学期に評価を受けた科目のGP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{総履修登録単位数}}$$

※GPとは各授業科目の5段階の成績評価に対応した評点(グレードポイント)。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/campuslife/pdf/regulation-52.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

国際言語学科

4年以上在籍し所定の単位数を修得すると共に、以下の素養を身に付け、外国語としての英語運用能力において、相手と意思疎通が十分にはかれるレベルの学生に対して卒業を認定する。

英米語コースでは、英語を実践的に運用できる知識とスキルを身につけている。

観光・ビジネスコースでは、グローバルに展開する当該業界を理解し、実践に応用可能な知識及び英語の技能を身につけている。

4技能(聴く、話す、読む、書く)の運用能力を高め、実践の場で活用することができる。

目指す産業界が求める技能に習熟し、実践の場で活用することができる。グローバル社会に通用するルールとマナーを身につけ、学びの成果を社会人生活の中で活かして行こうとする。

日常生活で適切な道徳観、倫理観を持ち、主体的に行動する。

問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる。

健康栄養学科

健康栄養学の学位は、人々の健康と社会の福祉に貢献することができる豊かな人間性を持ち、『社会から望まれる管理栄養士』に必要な以下の能力を修得したとき授与する。

病院等における栄養補給法に関し、医療チームに対して必要な提案や助言ができる。

地域住民の疾病予防や健康増進のための栄養教育を、栄養疫学に基づいて展開できる。

栄養学的なエビデンスに基づき、食品関連企業等において商品開発や製品の管理に参画できる。

個人・集団の健康状態等に適応する、適切に栄養管理された食事が提供できる。

上記のような能力を身に付け、所定の単位を修得した者に対し卒業を認め、栄養学の学位を授与する。

また、その目標を達成するため、以下のような知識・技術を身に付けるための教育を実施する。

【知識・理解度】

人々の健康管理や健康の維持・増進、および臨床の場において必要とされる高度な専門知識を体系的に身につける。

科学的根拠に基づいて、人を対象とした適切な栄養指導・教育を行うために必要な知識・技術を身につける。

地域社会の生活習慣病予防・健康増進を展開するために必要な知識・技術を身につける。

特定給食施設において適切なマネジメントを行い、特定多数人に継続して適切に栄養管理された食事を提供するための知識・技術を身につける。

【汎用的技能】

学んだ知識とその理解を基盤として、健康・栄養に関する問題について適切に情報を収集し、科学的に分析・検証することができる。

協働する医療・保健チームの中で適切な活動を行うために、また、対象者の栄養管理、栄養教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につけている。

組織における管理栄養士設置部門や給食の運営に関する部署を統括・管理するためのマネジメント能力とチームを率いるリーダーシップを持っている。

【態度・志向力】

社会の一員であるという自覚をもって自己管理を行い、何事にも率先し、精一杯努力して取り組むことができる。

学問は、常に発展途上であり、自らに欠けている点を自覚して、他者から謙虚に学ぶ姿勢を持つことができる。

人々の健康の保持・増進に貢献する自覚と意欲をもち、積極的に行動し、必要な情報を発信することができる。

【学習経験・思考力】

課題発見、解決を通して、科学的根拠を持ち、適切な評価・判定をする能力を持つことができる。

理学療法学科

社会性と教養を身につけた理学療法士になることができる。

【知識・理解】

理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。
理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。

【思考・判断】

理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。

【関心・意欲】

対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。
医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。

【態度】

幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。

【技能・表現】

理学療法士としての臨床場面での技能や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。

作業療法学科

作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。
作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。

作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。
作業療法を実践するために必要な文章力・対人的コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。

作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個性を尊重できる。

根拠に基づく作業療法（EBOT）の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる

看護学科

看護学科は、4年以上在籍し所定の単位数を修得すると共に、以下の素養を身につけ、看護師としての基礎的能力を身につけているレベルに達したと認められる学生に対して卒業を認定する。

看護学の理論や科学的根拠に基づき、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得することができる。

人々の健康課題を解決するための柔軟な思考力と大局的な判断力をもち、協働しながら援助を実践することができる。

人々の健康増進に関心をもち、主体的に学習を継続し、自己成長につなげることができる。

科学的に思考し、創造的に問題や課題を探究し解決することができる。

こども発達学科

卒業までに地域社会と保護者のニーズに応え、保育・教育・子育て支援において、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援し、保育者、教育者、子育て支援者としての基本的資質を身につけている。こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての知識と理解を得ている。

保育者・教育者・子育て支援者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力、及び同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を獲得する。

今日の保育・教育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。

主体的・探求的な学習を通じて、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を修得している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[http://www.do-
bunkyo-dai.ac.jp/department/dp_cp/index.html](http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/dp_cp/index.html)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4

－②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html
財産目録	http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html
事業報告書	http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html
監事による監査報告（書）	http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：平成 31 年度学校法人鶴岡学園事業計画 対象年度：2019 年度）
公表方法：次年度ホームページ上に公表予定
中長期計画（名称： 対象年度： ）
公表方法：

3. 教育活動に係る情報

（1）自己点検・評価の結果

公表方法： www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/evaluation/index.html
--

（2）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/evaluation/index.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 外国語学部 国際言語学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/foreign/international/index.html ）
（概要） 世界共通語でもある英語を自分のもうひとつの言葉として身につけ、それを使って世界の舞台上で活躍できる教養と専門知識も学びを深めることを目指している。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/foreign.html ）
（概要） 4年以上在籍し所定の単位数を修得すると共に、以下の素養を身に付け、外国語としての英語運用能力において、相手と意思疎通が十分にはかれるレベルの学生に対して卒業を認定する。 英米語コースでは、英語を実践的に運用できる知識とスキルを身につけている。 観光・ビジネスコースでは、グローバルに展開する当該業界を理解し、実践に 応用可能な知識及び英語の技能を身につけている。 4技能（聴く、話す、読む、書く）の運用能力を高め、実践の場で活用することができる。 目指す産業界が求める技能に習熟し、実践の場で活用することができる。 グローバル社会に通用するルールとマナーを身につけ、学びの成果を社会人生活の中で活かして行こうとする。 日常生活で適切な道德観、倫理観を持ち、主体的に行動する。 問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/foreign.html ）
（概要） 学生が、自らの目標を明確に理解できる実践的な科目を設定している。 少人数教育による、きめ細かな指導を行い、実践的な能力の向上に資する科目を設定している。 目指す業界で求められる科目を設定します。 学習の成果を、学生自らが理解でき、成長を確認できる指導を行う。 科目相互の関連を重視した適切な科目の展開及び学年配置をはかる。英語を使用言語とする授業を通じて、英語の実践的な運用能力を獲得できる。

基礎ゼミを通じて、大学での学習の仕方、方法を学び、上級学年での実践的なアウトプット能力伸長へとつなげる。

TOEIC、英検、観光英検、または国内・総合旅行業務取扱管理者試験、入学時から系統的にキャリア教育を実施する。キャリア・デザインⅠ、キャリア・デザインⅡ、キャリア・デザインⅢを入学時から順次学習していくことで、3年生後期からの就職活動にリンクさせたカリキュラムとなっている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/foreign.html>）

（概要）

自分の現状に満足せず、更に高い目標に向かって努力しようとする人。
グローバル社会に相応しい語学力や業界知識を身につけ、世界の舞台で活躍したいと努力する人。

仲間と協働することを楽しみ、自分と異なる価値観に対しても敬意を持てる人。

大学卒業後に国際社会で即戦力となれる人材を育てるために、大学在学中での実践的な語学教育カリキュラムを希望する学生の入学を期待する。

対人コミュニケーション、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートの基本能力を身につけ、ICTなどの知識を活用し、適切な情報発信ができる。

【入学前教育】

推薦図書の紹介や、在学生からの応援メッセージによる事前学習の動機付けなど。

【学力の3要素を踏まえた判定】

入学試験においては高等学校までに培われた学力の3要素に鑑み、各試験区分において求めた提出書類・面接・小論文・各教科目試験等の総合評価をもって合否を判定する。

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/human/dietetics/index.html>）

（概要）

管理栄養士養成施設なので卒業と同時に実務経験なしで管理栄養士国家資格受験資格が取得できる。管理栄養士は食と健康のスペシャリストであると同時に、人に深く関わる職業でもあるので豊かな人間性を持った管理栄養士の養成を目指している。さらに管理栄養士や栄養教諭の資格取得の他に健康と栄養のスペシャリストとして活躍できる人材を養成することを目指している。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/dietetics.html>）

（概要）

健康栄養学の学位は、人々の健康と社会の福祉に貢献することができる豊かな人間性を持ち、『社会から望まれる管理栄養士』に必要な以下の能力を修得したとき授与する。

病院等における栄養補給法に関し、医療チームに対して必要な提案や助言ができる。

地域住民の疾病予防や健康増進のための栄養教育を、栄養疫学に基づいて展開できる。

栄養学的なエビデンスに基づき、食品関連企業等において商品開発や製品の管理に参画できる。

個人・集団の健康状態等に適応する、適切に栄養管理された食事が提供できる。

上記のような能力を身に付け、所定の単位を修得した者に対し卒業を認め、栄養学の学位を授与する。

また、その目標を達成するため、以下のような知識・技術を身に付けるための教育を実施する。

【知識・理解度】

人々の健康管理や健康の維持・増進、および臨床の場において必要とされる高度な専門知識を体系的に身につける。

科学的根拠に基づいて、人を対象とした適切な栄養指導・教育を行うために必要な知識・技術を身につける。

地域社会の生活習慣病予防・健康増進を展開するために必要な知識・技術を身につける。

特定給食施設において適切なマネジメントを行い、特定多数人に継続して適切に栄養管理された食事を提供するための知識・技術を身につける。

【汎用的技能】

学んだ知識とその理解を基盤として、健康・栄養に関する問題について適切に情報を収集し、科学的に分析・検証することができる。

協働する医療・保健チームの中で適切な活動を行うために、また、対象者の栄養管理、栄養教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につけている。

組織における管理栄養士設置部門や給食の運営に関する部署を統括・管理するためのマネジメント能力とチームを率いるリーダーシップを持っている。

【態度・志向力】

社会の一員であるという自覚をもって自己管理を行い、何事にも率先し、精一杯努力して取り組むことができる。

学問は、常に発展途上であり、自らに欠けている点を自覚して、他者から謙虚に学ぶ姿勢を持つことができる。

人々の健康の保持・増進に貢献する自覚と意欲をもち、積極的に行動し、必要な情報を発信することができる。

【学習経験・思考力】

課題発見、解決を通して、科学的根拠を持ち、適切な評価・判定をする能力を持つことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/dietetics.html>）

（概要）

管理栄養士に求められる能力を身に付けるため、以下のような方針で教育課程を編成・実施する

健康栄養学科の教育課程の編成は、社会で活躍する管理栄養士に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置して効率的な学習を施行する。また、「総合演習」、「臨地実習」および「卒業研究」を通じて、管理栄養士の業務に関する科学的根拠に基づく適切な計画・実行・評価・判定を行う能力を養う。

「管理栄養士概論」「食・生活教育演習」などの導入教育と位置付けられる科目の学習を通じて明確な管理栄養士像を造り上げる。

多様な学生に対応するため、高校で学んだ内容も含んだ基礎的な科目を配置し、すべての学生が専門的な科目を学ぶために必要な知識・学力を身に付ける。これにより、高校教育から大学における専門教育へと、連続的・統一的に学習が進められるようにする。

栄養学、健康と病気の概念の理解に必要な基礎教育科目、技術・スキルの基礎としての実験・実習科目を配置し、2年次以降に学ぶ専門科目主体の学習への素地を醸成する。

栄養士法、同法施行令、施行規則及び管理栄養士学校指定規則、並びに、学則で定められた専門基礎科目及び専門科目をもとに、栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、栄養教諭一種免許、食品衛生管理者及び食品衛生監視員（任用資格）を取得するために必要な科目を配置する。2年次後期から3年次前期にかけて豊富な学内実習を設置し、管理栄養士が活躍する職場で必要とされる知識・技術を身に付けたうえで、3年次後期から4年

次前期の臨地実習につなげカリキュラムを構成している。こうした科目配置により、就職活動への支障を極力抑えるように配慮している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.dobunkvodai.ac.jp/outline/policy/dietetics.html>）

（概要）

健康栄養学科が期待する学生は、社会の中で管理栄養士として活躍し、人々の健康と社会の福祉に貢献したいという意思を持って、そのために必要な教育に前向きに取り組む意欲のある学生である。

管理栄養士の学術的根拠となる栄養学を学ぶために、必要となる生物や化学、国語などの基本的な学力および一般的な計算能力を身に付けている。課題に対し「どこが問題なのか」「解決には何が必要か」などを自分で考えることができる。

実験・実習などにおいて、他者と協働して作業を行うことができる態度が身につけている。

【入学前教育】

国語総合や数学Ⅰを通じて、全般的な学習の基盤となる読解力、文章力、計算力の修得を図る。

管理栄養士教育の基礎として必要な生物・化学については、生物基礎・化学基礎レベルの内容の十分な修得を図る。

実習科目や課外活動を通じて、他者と協働するために必要な態度、コミュニケーション能力の修得を図る。

【多角的評価】

入学試験における学生の選抜は、試験成績だけではなく推薦書や調査票を基にして、人物像や高校での生活状況、各種の活動なども含めた多角的な評価により、合格者の判定を行う。

【学力の3要素を踏まえた判定】 入学試験においては高等学校までに培われた学力の3要素に鑑み、各試験区分において求めた提出書類・面接・小論文・各教科目試験等の総合評価をもって合否を判定しています。

<p>学部等名 人間科学部 理学療法学科</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/human/pt/index.html）</p> <p>（概要）</p> <p>「豊かな人間性」「健全な社会性」「高度な専門性を持った理学療法士養成」を教育目標とし、刻々と変化する現代社会においても常に社会の要請にこたえることのできる理学療法士の育成を目指す。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/pt.html）</p> <p>（概要）</p> <p>社会性と教養を身につけた理学療法士になることができる。</p> <p>【知識・理解】 理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。</p> <p>【思考・判断】 理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲】 対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。</p> <p>【態度】 幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。</p> <p>【技能・表現】 理学療法士としての臨床場面での技能や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/pt.html）</p> <p>（概要）</p> <p>豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけるために、多彩な教養科目を配置し専門基礎科目と専門科目との連携を図る。理学療法学の専門的知識・技術を系統的に学べるように、専門基礎科目、専門科目、臨床実習を体系的に配置している。医療に関わる他の職種と適切な連携をとり、地域社会に貢献できる人材を養成するために必要な専門基礎科目や専門科目を配置します。先進的な研究成果の理解力、課題探求能力、論理的な解決能力を身につけるために、少人数ゼミ形式で研究の基礎を学ぶための教育を展開している。理学療法士国家試験受験資格を得ることができる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/pt.html）</p>

bunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/pt.html)

(概要)

【意欲として】

- ・医療や介護の現場でリハビリテーションに関わりたい人
- ・人間の運動・動作のメカニズムについて学びたい人
- ・障がいのある人のために貢献したい人
- ・スポーツをする人のために貢献したい人
- ・がん患者のリハビリテーションに関わりたい人
- ・高齢者の健康維持・増進のために貢献したい人

【能力として】

- ・理学療法を学ぶために必要な基礎学力を持つ人
- ・論理的に考え自ら判断できる人
- ・自分の考えをわかりやすく説明できる人
- ・多様な生き方や考え方を理解できる人
- ・周囲に配慮し協力して行動できる人

【多角的評価】

基礎学力、文章表現力、コミュニケーション能力、学科を選択した動機、社会に対する関心などを総合的に評価する。

【学力の3要素を踏まえた判定】

入学試験においては高等学校までに培われた学力の3要素に鑑み、各試験区分において求めた提出書類・面接・小論文・各教科目試験等の総合評価をもって合否を判定しています。

学部等名 人間科学部 作業療法学科

教育研究上の目的 (公表方法 : <http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/department/univ/human/ot/index.html>)

(概要)

豊かな人間性と倫理観を伴った幅広い専門知識とチーム医療領域を理解し、国際的視野と複雑な社会状況に対処する問題解決能力を養い、個人の生活を尊重し敬意を持って人を理解するコミュニケーション能力を養うことを目的とする。

卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/ot.html>)

<p>)</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。 ・作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。 ・作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。 ・作業療法を実践するために必要な文章力・対人的コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。 ・作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個性を尊重できる。根拠に基づく作業療法 (EBOT) の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/ot.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>教員は、学生とともに新しいことに挑戦し、学生を励まし、学生の伸びを認める姿勢を保つ。</p> <p>【教育課程編成】</p> <p>学習者中心型教育・学習成果基盤型教育のために、体系性と順次性を重視した科目配置を行う。</p> <p>【学修方法・学修過程】</p> <p>問題発見とその解決および論理的思考力を養うために、課題について能動的に自ら探索することを重視した教育（アクティブラーニング）を実施する。授業の事前・事後における主体的な学修を促進する。</p> <p>知的好奇心すなわち問題発見能力を養うために、また、コミュニケーション能力を高めるために、グループ学習など対話型・学生参加型の授業法を取り入れる。</p> <p>作業療法士としての基本的技能を身につけるために、臨床実習はクリニカルクラクシップ（臨床参加型臨床実習）形式で行う。</p> <p>特に初年次においては、多様な入学者が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるように促す。</p> <p>【学修成果の評価】</p> <p>学習成果の把握のために、各科目における到達目標を明確に提示し、成績評価を厳格に行う。</p> <p>筆記試験に加え、OSCE（客観的臨床能力試験）、ポートフォリオ、ルーブリックなどを用い多元的で質の高い評価を行う。</p> <p>評価結果について、学生に十分なフィードバックを行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/ot.html）</p>

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法に強い興味を持ち、積極的に学び続けようとする。 ・基礎学力を備えている。 ・他の人の言葉や文章の意味を正しく理解でき、自分の考えを文章や言葉ではっきりと表現することができる。 ・人間の構造・機能のメカニズムや、生活の背景について、様々な疑問を持ち想像をめぐらすことができる。 ・柔軟で誠実な姿勢で人に関わることができる。 <p>【学力の3要素を踏まえた判定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学試験においては高等学校までに培われた学力の3要素に鑑み、各試験区分において求めた提出書類・面接・小論文・各教科目試験等の総合評価をもって合否を判定しています。

<p>学部等名 人間科学部 看護学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/human/nurse/index.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>幅広い視野と高い見識を持った地域的、国際的に活躍できる資質の高い看護職者を育成することを目指す。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/nurse.html）</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学科は、4年以上在籍し所定の単位数を修得すると共に、以下の素養を身につけ、看護師としての基礎的能力を身につけているレベルに達したと認められる学生に対して卒業を認定する。 ・看護学の理論や科学的根拠に基づき、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得することができる。 ・人々の健康課題を解決するための柔軟な思考力と大局的な判断力をもち、協働しながら援助を実践することができる。 ・人々の健康増進に関心をもち、主体的に学習を継続し、自己成長につなげることができる。 ・科学的に思考し、創造的に問題や課題を探究し解決することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/nurse.html）</p>

(概要)

- ・看護師免許取得に必要な看護学の基礎となる教育内容を体系化したカリキュラムを作成している。
- ・前期から看護の基盤となる講義や実習を配置して、看護学を専攻した入学時の動機づけが継続できるように配慮している。
- ・本学科の特徴は、1年次から4年次まで、講義で得た知識を、演習や実習で強化できるようにバランスよく科目を配置していることである。これにより「看護師国家試験受験資格」が得られるカリキュラムになっている。
- ・実習は、主に3年次後期から4年次前期に集中して行われる。このため、3年次後期から就職への心構えや準備を整えている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/nurse.html>）

(概要)

- ・本学科では、看護師に興味や関心がある人材を求めている。
 - ・看護学を学ぶために必要な基礎学力を身につけている人
 - ・問題解決に向けて、思考力と判断力、行動力を発揮できる人
 - ・協働しながら、主体的に課題に取り組むことができる人
- 【入学前教育】
- ・学習習慣の継続と自己管理能力向上を目的とし、高等学校で身につけた知識の再確認を、推薦入試による合格者を対象に実施している。
- 【多角的評価】
- ・本学科の入学試験では、学力だけではなく調査票なども用いて、学業継続可能性などの視点からも総合的に評価している。
- 【学力の3要素を踏まえた判定】
- ・入学試験においては高等学校までに培われた学力の3要素に鑑み、各試験区分において求めた提出書類・面接・小論文・各教科目試験等の総合評価をもって合否を判定している。

学部等名 人間科学部 こども発達学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/nurse.html>）

bunkyo-dai.ac.jp/department/univ/human/child/index.html)

(概要)

主体的・創造的・挑戦的「楽しさ」を共有できる資質の養成、発達支援のプロフェッショナルとして理論と実践が一体化できる能力の養成、バランス感覚豊かな優れた資質と能力の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/child.html>）

(概要)

- ・卒業までに地域社会と保護者のニーズに応え、保育・教育・子育て支援において、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援し、保育者、教育者、子育て支援者としての基本的資質を身につけている。
- ・こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての知識と理解を得ている。
- ・保育者・教育者・子育て支援者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力、及び同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を獲得する。
- ・今日の保育・教育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。
- ・主体的・探求的な学習を通じて、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/child.html>）

(概要)

- ・保育者・教育者・子育て支援者として求められる知識・能力を乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものそれぞれについて広く学ぶとともに、そのいずれかについて一層深い知識を身につける。
- ・こどもの幸せを願い、こどもとともに成長することを喜びとする資質をベースに、心理学・教育学・特別支援教育学等の科学的見地を学習することによって、保育者・教育者としての資質・能力の形成へとつなげる。
- ・初年次は基礎ゼミ等による科学的探究方法への入門教育や、文章表現能力形成等の基礎教育に加え、こどもの成長・発達やそれを実現する教育についての全般的な理解を図る。
- ・保育士資格ならびに幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭のうちの3つの免許取得を基本とし、豊富なボランティア活動を行う。
- ・保育士に関する学外実習は2、3年次、その他の教員免許に関する実習は4年次、就職活動は4年次に実施し、その前後に次週準備の講義、反省の事後指導を配置するなどして、理論と実践の結合を図り、実践能力を形成す

る。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/child.html>）

（概要）

- ・いろいろな人とかかわり、意志や思いを伝えあいたいと願う人、コミュニケーション能力を常に高めたいと考える人。
- ・広い視野を持つ努力を怠らず、人々の生活に幅広く目を向け、論理的思考能力を持ち、バランス感覚に優れた人格でありたいと願う人。
- ・こどもの幸せを願い、こどもの発達を支えていく意欲にあふれ、専門的な力を発揮するための努力を怠らず、自ら行動することを目標とする人。
- ・こどもの生活や成長に強い関心を持ち、ユニーク入試等にも積極的にチャレンジする意欲のある人。
- ・こどもに関する心理学・教育学・特別支援学等の科学的理論、学問、さらには実習等の実践的な学習によって、入試で問うたこどもへのかかわりを求める資質を開花させるようにする。
- ・基礎・基本的な知識・技能の習得するための勉学の習慣、社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、目標の実現に向かって努力を続ける学習意欲をもっている人。

【入学前教育】

- ・広く社会、教育、こども等についての関心を育てるために新書等の書籍を読書し、さらにこれを要約し、レポートするなどの課題を課し文章表現力を養う。

【多角的評価】

- ・学力試験、入試センター試験、面接試験等により多様な資質を評価するよう計っているが、加えてAO入試(ユニーク入試)により、いっそう多様な観点を導入している。

【学力の3要素を踏まえた判定】

- ・入学試験においては高等学校までに培われた学力の3要素に鑑み、各試験区分において求めた提出書類・面接・小論文・各教科目試験等の総合評価をもって可否を判定しています。

公表方法：www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/evaluation/index.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
外国語学部	—	10人	2人	3人	0人	0人	15人
人間科学部	—	38人	23人	25人	14人	9人	109人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
—			70人				70人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
平成30年度3回実施 8月学習評価の基本 1月シラバス作成に関する研修会 2月アクティブラーニング型授業をデザインする							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
外国語学部	100人	48人	48%	400人	239人	59%	—人	5人
人間科学部	450人	392人	87%	1800人	1746人	97%	—人	0人
合計	550人	440人	80%	2200人	1985人	90%	—人	5人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
外国語学部	52人 (100%)	2人 (3.8%)	41人 (78.9%)	9人 (17.3%)
人間科学部	483人 (100%)	3人 (0.6%)	465人 (96.3%)	15人 (3.1%)
合計	535人 (100%)	5人 (0.9%)	506人 (94.6%)	24人 (4.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				

国際言語学科：卸・小売り（40.4%） 運輸・郵便（9.6%） 宿泊・飲食（9.6%） 健康栄養学科：栄養士・管理栄養士・公務栄養士・栄養教諭（70.3%） 理学療法学科：医療関係（99.0%） 作業療法学科：医療関係（100%） 看護学科：医療法人（46.2%） 公的病院（23.7%） 大学病院（17.2%） こども発達学科：保育士（28.0%） 小学校・特別支援学校教諭（27.0%） 幼稚園教諭（17.0%）
（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
外国語学部	55人 (100%)	35人 (63.6%)	人 (%)	15人 (27.2%)	人 (%)
人間科学部	504人 (100%)	447人 (88.6%)	人 (%)	31人 (6.1%)	人 (%)
合計	559人 (100%)	482人 (86.2%)	人 (%)	46人 (8.2%)	人 (%)
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要） 開講前年度の12月までに来年度の授業を計画し、2月中旬を期限としてシラバスの作成、ポータルシステムへの登録へと進めている。教員には、「シラバスの作成に関する研修会について」のFD研修会を開催し、資料「シラバス作成要領」に基づき、①授業の位置づけ、②授業の概要、③到達目標、④授業の方法、⑤授業計画（学習内容、準備事後学習）、⑥成績評価の方法、⑦教科書、⑧参考文献、⑨課題に対するフィードバックの方法などを示している。 シラバス作成後は、シラバスチェック専門部会規程により選出されたシラバスチェック委員により、全科目のシラバスが「シラバスチェック要領」に基づいて内容確認が行われ、3月下旬にWEB公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>開講前年度の12月までに来年度の授業を計画し、2月中旬を期限としてシラバスの作成、ポータルシステムへの登録へと進めている。教員には、「シラバスの作成に関する研修会について」のFD研修会を開催し、資料「シラバス作成要領」に基づき、①授業の位置づけ、②授業の概要、③到達目標、④授業の方法、⑤授業計画（学習内容、準備事後学習）、⑥成績評価の方法、⑦教科書、⑧参考文献、⑨課題に対するフィードバックの方法などを示している。</p> <p>シラバス作成後は、シラバスチェック専門部会規程により選出されたシラバスチェック委員により、全科目のシラバスが「シラバスチェック要領」に基づいて内容確認が行われ、3月下旬にWEB公開している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
外国語学部	国際言語学科	124単位	有・無	44単位 (各学期26単位)
人間科学部	健康栄養学科	124単位	有・無	44単位 (各学期26単位)
	理学療法学科	124単位	有・無	44単位 (各学期26単位)
	作業療法学科	124単位	有・無	44単位 (各学期26単位)
	看護学科	124単位	有・無	44単位 (各学期26単位)
	子ども発達学科	124単位	有・無	44単位 (各学期26単位)
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： 北海道文教大学奨学金 http://www.do-unkyodai.ac.jp/campuslife/scholarship.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： 授業評価アンケート http://www.do-bunkyodai.ac.jp/college/news/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：北海道文教大学ホームページ バナー「施設・アクセス」 http://www.do-bunkyodai.ac.jp/facilities/campus/ 学校法人鶴岡学園「概要」
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
外国語学部	国際言語学科	810,000円	200,000円	150,000円	教育充実費
人間科学部	健康栄養学科	810,000円	200,000円	300,000円	教育充実費・実験実習費
	理学療法学科	800,000円	300,000円	500,000円	教育充実費・実験実習費
	作業療法学科	800,000円	300,000円	500,000円	教育充実費・実験実習費
	看護学科	1,000,000円	300,000円	500,000円	教育充実費・実験実習費
	子ども発達学科	800,000円	200,000円	250,000円	教育充実費・実験実習費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>学生一人ひとりの学力に応じて学修を行うための環境の構築と、経済的な不安なく学修に専念できるための奨学金制度の充実をはかることにより学修を支援する。</p> <p>学修環境としては、1年生は入学直後に宿泊研修を行い、上級生や教職員と親睦を図りながら大学生活に慣れることを目的としている。クラス担任、アドバイザー制度をおき、修学及び進路等についての個別指導を入学時から行い、日常的に相談に応じ、助言を与える学生指導上のシステムの他、オフィスアワーを設けて学部・学科と問わず専任教員と話し合い、指導をうけることができるようにしている。</p> <p>経済面では成績優秀者、課外活動優秀者、経済的理由により修学が困難な者に対する給付奨学金、入学時成績特待、スポーツ特待、緊急支援に対する減免、海外留学奨励金を設けている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生一人ひとりが社会人として自立できるために、職業人としての意識の醸成、進路の選択、就職活動を学年に合わせてきめ細かく支援する。</p> <p>3年次後期15回行う就職活動準備講座、全学年対象の公務員対策、FP資格講座等の就職支援講座を実施している。就職活動の手順やルールについて学びながら豊かに自己を表現できる為の実践的講座としてキャリアデザイン講座を開講している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生一人ひとりの心身の健康の保持・増進をはかるための環境の構築と、生活全般にわたる問題点を相談できる体制を充実させることにより、安心して学生生活を送れるように支援する。保健管理センターには2名の看護師が常勤し対応し、学内において負傷したり気分が悪くなった場合は適切な処置、対応を行う他、メンタルに関する悩みは、学外の臨床心理士2名が定期的にカウンセリングを行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/staff/</p>
